

## 鴻巣ボーイズ杯争奪小学生軟式野球大会大会規則

### 1. 参加資格

スポーツ少年団もしくは学童野球に登録された少年野球チームとし、参加者はスポーツ傷害保険もしくはそれに順ずる傷害保険の加入手続きを完了したものとす。

### 2. チーム登録

- (1) 本大会は登録された選手以外は、出場できない。
- (2) 参加申し込み1団の登録数は、15名以内とする。また、登録選手以外に最大5名の選手のベンチ入を認める。
- (3) 選手登録と同時に監督と指導者（3名以内）スコアラー（1名）、父母（1名）の計6名以内を登録するものとする。
- (4) 登録内容に変更が生じた場合、その都度、大会本部に申し出、その承認を得なければならない。選手登録の変更は認めない。
- (5) 合同チームの参加については【4-(1)】項を遵守することを前提に許可する事とする。

### 3. 競技運営に関する注意事項

本大会における競技運営については、次の事項を守らなければならない。

- (1) 出場チームは、試合開始予定時刻の1時間前までに会場に到着すること。
- (2) 会場到着時及び退出時には、大会本部に申し出、指示を受けること。  
各チームは試合開始予定時刻30分前、又は前の試合の4回終了時まで、大会本部にメンバー表（3部）を提出し、登録選手の照合を受けること。その際、攻守の決定を行うこと。攻守の決定はジャンケンとし、勝ったチームに先攻、後攻の選択権を与える。
- (3) 提出し、登録選手の照合を受けること。その際、攻守の決定を行うこと。攻守の決定はジャンケンとし、勝ったチームに先攻、後攻の選択権を与える。
- (4) すべての大会に、日本スポーツ少年団指導者綱領、本大会規則を織込み競技運営にあたる。
- (5) ベンチは、組み合わせ番号の若い方を一塁側とする。
- (6) シートノックは5分間とする。ノッカーはユニフォームを着用のこと。尚、大会運営上、時間を短縮し、又は、シートノックなしで試合を開始することがある。
- (7) 球場内でのフリーバッティングは認めない。
- (8) 試合中（試合前の練習を含む）、ダッグアウトの中に入れる人員は、登録用紙に記載された者のみとする。
- (9) 試合開始、終了の挨拶時、指導者は全員ベンチ前に整列して挨拶すること。
- (10) 投手が手首にリストバンド（サポータ等）を使用することを禁ずる。
- (11) 試合開始予定時刻前でも原則として、前の試合が終了して30分後に次の試合を開始する。ただし、決勝戦については大会本部が決定する。
- (12) 試合予定時刻を超過しても、球場に（9名）現れないチームは棄権と見なす。
- (13) ダッグアウト（ベンチ）の中で携帯マイクを使用してはならない。
- (14) ファールボールは、ベンチサイドで処理する。
- (15) 選手交代は必ず球審に申し出ること。特に、2人以上の交代については注意すること。
- (16) 次打者は必ず次打者席に低い姿勢で入ること。（次打者席内の素振りは禁ずる）
- (17) 次打者席は自分の席側とし、打席につく際、不要のバット等をグラウンドに置いていかないこと。  
空タッチを禁ずることとし、現実には走者が進塁のとき、野手が空タッチをして走者の妨害（よろめいたり、著しく速度がにぶった場合）となったと審判員が認めたときは、オブストラクション（b項）を適用する。
- (18) 選手が塁上に腰をおろすことを禁ずる。
- (19) 投手交代の際の投球数は、1分間7球までとする。その他は3球とする。
- (20) 試合球の交換は、審判員が認めた場合に限る。
- (21) 投手の投球は、直球のみとする。

- (23) 試合の状況により、内野手の転送球を止めさせることがある。
- (24) 打者は投手が投球位置にいる、いないに関係なく速やかにバッターボックスに入ること。
- (25) 打者は思うままにバッターボックスを出入りする自由は許されない。
- (26) 打者がみだりにバッターボックスを外した場合は、球審はタイムをかけずに投手に対して正規にカウントして、ボール、ストライクを宣告する。
- (27) 打者走者及び走者は、ヘルメット等を落としてもタイムを掛け合いにいつてはならない。審判員はワンプレイが終了したと判断してときにヘルメット等を拾って打者走者及び走者に渡す。
- (28) 足を高くあげてスライディングすることは危険防止のため禁止し、現実これが妨害となったと審判員が認めた場合は走者をアウトとする。
  
- (29) 投球が終了（見送るか空振り）したら、バッターボックスを外すことは差し障りないが、投球毎に外すことは許されない。
- (30) 1人の投球の1日の投球回数は、21アウトとする。（21アウト目のダブルプレー、トリプルプレーは、1アウトとしてカウントする）
- (31) 選手の交代は敏速に行うこと。
- (32) 守備側の捕手を中心とした『檄コール』は捕手席内で短く行うこと。
- (33) 球場の内外を問わず、マナーに留意し立派な態度をとること。
- (34) 試合終了後のグラウンド整備は、使用した両チームが行うこと。
- (35) 試合日程の変更はできない。（天候等の順延は別）

#### 4. ユニフォーム

- 同一チームの選手、監督、コーチは、同色、同形のユニフォーム（帽子、ストッキング、スパイク）を着用しなければならない。
- (1) ソックスの上にストッキングをはき、ストッキングが見えなければならない。
  - (2) ユニフォームのカラーは、品位を失わないものとする。上着は、Tシャツにチーム名をプリントしただけのものは認めない。
  - (3) 背番号は、監督30番、コーチ29番以下、主将10番、その他については0番または、1番から順につける形で、選手は20番以内が望ましい

#### 5. 使用球及び使用用具

本大会での使用球及び使用用具は、次の通りとする。

- (1) ボール 連盟公認の軟式C号とする。
- (2) バット 木製の他、連盟公認の金属製バットを使用すること。
- (3) スパイク 金属製スパイクの使用は禁ずる。  
捕手は、連盟公認のマスク（安全带付スロットガード付）、レガース、ヘルメット、プロテクター及びカップを着用しなければならない。
- (4) 捕手の用具  
（※マスク、ヘルメットの一体型は認めない。）
- (5) ヘルメット 打者、走者及びベースコーチは、連盟公認の耳付ヘルメットを着用しなければならない。

#### 6. 競技規則

競技規則（ルール）は、本大会規則及び全日本軟式野球連盟が定めた「少年野球に関する事項」の項による。ただし、試合会場毎にグラウンドルールを決めることができる。

## 7. 試合回数及び試合時間

- (1) 正式な試合回数は、7回とする。
- (2) 一試合の使用時間は1時間30分とし、試合開始後1時間30分を経過した後は、新しいイニングに入らない。
- (3) 延長戦は、時間内で9回までとする。尚、延長の場合は【3-(30)】項（21アウト）は適用しない。
- (4) 7回終了、又は1時間30分（延長戦も含む）を過ぎて同点の場合は、特別延長戦（タイブレーク）によって勝敗を決する。  
継続打順とし、前回の最終打者を一塁走者として、二塁、三塁の走者は順次、前の打者とする。すな  
(ア) わち無死満塁の状態にして1 イニング行い、得点の多いチームを勝者とする。  
尚、同点の場合は、抽選とする。  
(イ) 特別延長戦は、1時間30分経過後でも行う。  
(ウ) 特別延長戦は、代打、代走及び守備交代を認める。  
(エ) 特別延長戦においては、【3-(30)】項（21アウト）を適用しない。

## 8. 抽選方法

審判員及び試合終了時に出場していた両チームメンバーの9名が、終了挨拶の体形に整列し、次の方法にて行う。

- (1) 球審の指示により、先頭から順番に相手チームとジャンケンを行う。
- (2) 球審がじゃんけんの勝者を数え、勝者の多い方が抽選勝ちとする。

## 9. コールドゲーム

- (1) 暗黒、降雨その他で、球審によって打ち切りを命じられた試合（コールドゲーム）は、ノーゲームとし、後日、再試合とする。ただし、次の場合は、正式試合となる。  
(ア) 5回（4回1/2）終了で成立（同点の場合は抽選）、それ以前については再試合とする。
- (2) 得点差によるコールドゲームは、次の通りとする。  
(ア) 5回（4回1/2）終了時以降の得点差が7点以上の場合。ただし、決勝戦は除く。

## 10. 審判員

本大会の審判員（球審、塁審の計4名）は参加チームの帯同審判制とする。ただし、準決勝および決勝については、当球団審判部が担当する事とする。

帯同審判として各チームから **2名の審判**を派遣する。

帯同審判は、自チーム以外を担当することとする。

\* 審判シフト

第1試合：第2試合の帯同審判が担当

第2試合：第1試合の帯同審判が担当

第3試合：第1または第2試合で敗退してしまったチームの帯同審判が担当

## 11. 抗議

監督、主将及び当該プレーヤー以外の抗議は認めない。

## 12. 野次他

- (1) 試合中における選手または審判員に対する個人攻撃及び好ましくない野次を厳禁する。
- (2) 前項に違反したときは審判員または、当球団役員が注意を与える。再度注意を与えても改めないときは退場させる。

以上